

アイ・ミルク北陸株式会社

代表取締役社長 廣田 孝司氏 (53歳)

北陸最大級となる年間約2万トンの処理能力を誇り、石川県を中心に牛乳・ヨーグルトを製造・販売するアイ・ミルク北陸(能美市)。全国的に牛乳の消費量が落ち込む中、新工場の増設、事業統合など積極的な一手を打つ同社の廣田孝司社長に、地元の人に親しまれる商品の特色や、創業からこれまでの歩みを聞いた。

「農協牛乳」ブランドは
アイ・ミルク北陸が発祥

北陸、とりわけ石川県の人のとっては大変親しみのあるデザインと言えるだろう。オレンジと白のパッケージに、丸みを帯びた独特の書体で商品名が入る「農協牛乳」は1955年に石川県で初めて販売され、全国各地にその商品名で広がっていったブランドだ。60年以上にわたって販売するこのロングセラーの製造を、現在手がけているのがアイ・ミルク北陸だ。

さらに、農協牛乳だけではなく、オリジナル商品や小売店のプライベートブランド、宅配用の瓶に入った牛乳など、



農協牛乳をはじめとした商品の一例

鮮度と品質にこだわり 北陸最大級の牛乳メーカー

同社が取り扱う商品数は20アイテムを超える。その中には北陸のスーパーマーケットでおなじみの牛乳やヨーグルトも数多い。学校給食では、石川県内の約6割で同社の牛乳を飲用されており、一昨年から供給を開始した福井県内では早くも約1割のシェアを獲得している。

地元の人たちから高い支持を受け、一番の理由は、すっきりと喉越しのいいおいしさにある。アイ・ミルク北陸のキャッチフレーズ「いしかわ生まれいしかわ育ち」が示すように、ブランド商品には石川県

内の酪農家が生産する生乳だけを使う。なぜなら、牛乳は時間がたつほど酸化し、味が劣化するからだ。同社では、搾りたての生乳の検査・殺菌・充てんなどの加工から出荷までをスピー

ディーに行い、消費者にいち早く商品をお届けすることに努めている。もちろん、貯蔵や処理時の温度管理なども徹底する。

「酪農家の皆さんは、牛にストレスのない環境を整えたり、与える牧草を工夫したりと、品質向上に一生懸命に努力している。そのおいしさを損なわないようにするのが、私たちの仕事だ」(廣田孝司社長)。

そんな同社の思いを象徴する商品に「のとそだち」がある。これは能登町と穴水町の酪農家5軒の生乳を専用タンクローリーで集め、徹底した品質管理のもとで24時間以内に店頭並べ。プレミアム商品だ。パッケージには全国農協乳業協会認定の生乳鮮度重視マークが貼られており、そのおいしさは消費者から高い評価を受けている。

創業は明治期。
乳牛5頭の
飼育から始まる

生産から販売まで、ふるさとに軸足を置いた経営に取組むアイ・ミルク北陸の歴史をたどると、明治期にまでさかのぼる。始まりは、現社長の曾祖父にあたる廣田美之吉氏が、1894



創業時に県から発行された乳牛に関する証明書



菌の状況を厳しくチェックし、安全管理を徹底



酪農家から届く生乳を貯蔵するタンク

出身で機械に通じていた廣田社長は、操作方法など従業員への指導に率先してあたり、生乳の処理量は従来に比べて5倍近くに達した。

国際的な管理システムを
導入し、衛生管理を徹底

3月には隣接地に第2工場を新築。1日あたり50〜60トンの生乳を処理できる能力へと増強した。安全性を高めるための態勢構築にも努め、10年にHACCP(※1)、12年にはSQF(※2)という食品の安全や品質に関する国際的なマネジメントシステムを導入し、衛生管理を徹底している。

ふるさとの人たちに
安心して楽しめる商品を

年に能美郡福江村五間堂(現在の能美市五間堂町)に立ち上げた愛特社だ。創業時は乳牛を5、6頭飼育し、自ら搾乳して量り売りしていたという。その後、個人経営を続けていたが、1952年に同業者5社が集まって小松市土居原町に小松牛乳有限公司を設立、65年に株式会社に改組し、現在に移動した。

「高校生のころまでは、自宅で乳牛を飼っていた。こう振り返る廣田社長は、大学進学のために郷里を離れ、卒業後は京都で電子部品メーカーに勤務した。そして、91年、父の豊春氏(現会長)が社長を務めていた小松牛乳で働くため、約10年ぶりに石川県に戻ると、取り巻く環境は大きく変わっていた。食品業界全体で衛生管理への意識が非常に強まっていたのである。

また、93年のウルグアイ・ラウンド農業合意後、国際競争力を高めることを目的に乳業工場の再編整備を求め、声も高まり始めていた。そんな中、同社では積極的な設備投資を決定し、2001年に工場の全面改築を行い、最新のライン設備や貯蔵設備を導入。品質管理の徹底と大量生産を両立できる態勢を確立した。理工学部

北陸に事業統合の相談が寄せられた。同社としても経営規模の拡大を探っていた時期であり、両社の思いが合致し、統合計画は進んだ。統合によって社員数はほぼ倍増し、加賀が中心だった営業エリアは石川県内全域へと一気に広がった。

並行して、事業統合による製造量の大幅な増加に対応するため、11年

「事業統合はいい面ばかりではなく、勤務地が変わった社員もいれば、ブランド統合で愛着ある商品の製造を中止したのものもある。両社の従業員が痛みを分け合いながら一歩ずつ進んできた」。廣田社長はこう話し、いくつもの壁を乗り越え、最近になってようやくスケールメリットを生かせる段階にきたという手応えを感じている。

一方で、社員には、5S(整理・整頓、清掃、清潔、しつけ)と、ささいなミスやトラブルもおろそかにしないことも徹底している。これからも変わらず、ふるさとの人たちにおいしい牛乳やヨーグルトを安心して楽しんでもらえるよう、アイ・ミルク北陸では、日々の当たり前の積み重ねの中に、消費者の信頼につながる力を見出している。



アイ・ミルク北陸株式会社

〒923-1123 石川県能美市吉光町ハ-5
http://www.i-milk.co.jp

1965年5月設立。明治時代の創業から現在まで安全・安心の製品をお届けする乳業メーカー。2011年に小松牛乳と北陸乳業が事業統合し、経営規模を拡大。石川県内を中心とした北陸エリアに牛乳やヨーグルト製品を提供しており、近年は味や品質管理を徹底した「のとそだち」などの特色ある商品開発にも力を注いでいる。